

第3学年5組 社会科学習指導案

日時 令和3年11月10日(水) 2校時
 場所 3年5組 教室
 授業者 主幹教諭 志賀 博史

1 単元名 国の政治の仕組み「裁判員裁判」

2 本時の目標 評議での話し合いを通して、裁判員制度の意義を考えることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

3 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 評価
導入	1 前時の学習を振り返る。 昔話法廷 (NHK for School) 2 本時の課題を確認する。 評議を通して裁判員制度の意義を考える。	10	○前時に視聴した裁判員裁判のあらすじをモニターで確認する。(前時の欠席者への対応として、裁判内容を簡単に説明する。できるかぎり評議に参加できるように支援する) ○裁判員として自分の意思を表明することを伝えて、本時の課題確認につなげる。 ○裁判の争点を簡単に説明するとともに、黒板に掲示して、生徒の思考の手助けとする。
展開	3 課題を追究する。 (1) 班で評議する。 ・一人ずつ出した答えとその根拠を発表する。 ・話し合っって班としての評決を出す。 ・評決の根拠をまとめる。 ・黒板に評決札を貼る。 (2) 班ごとに評決を発表する。 ・評決の根拠を説明する(班長)。 ・すべての班の評決内容を確認して学びを共有する。 ・自分の答えを改めて確認する。 ・裁判員裁判の判決確定率が高いことを知る。 導入前 82.4%→導入後 93.4%	25	評議の進め方 ・答えを述べた後に根拠を説明する。 ・友達の発表に対する質問は○。 ・反論は○ですが、言い負かしは×。 ・出した答えを変更してもよい。 ・話し合っって班としての評決を出す。 ・評決とその根拠をみんなでまとめる。 ○今回は「死刑にする」「死刑にしない」の二択に限定して判断するよう指示する。 ○「自分の班にはなかった視点」など、メモをとるポイントを助言する。 ○評決内容を板書して、学びを共有する。 ○自分の答えを確認させた上で、考えに変化があったかどうか確認する。 ○裁判員裁判の意義をまとめる上で、参考になるデータを掲示して、まとめにつなげる。 【思考力・判断力・表現力】 根拠をもとにして、自分の考えを発表することができる。(生徒観察・ワークシート)
終末	4 学習のまとめをする。 (1) 裁判員制度の意義(重要性)について、自分の考えをまとめる。 (2) 裁判員をやってみたいかどうか、意思表示する。 ・経験者のほとんどが「やって良かった」と感じていることを知る。	15	○一般市民の視点や常識が必要であることや人を裁く責任感の重さを理解させる。 ○「やってみたい」「やってもいいかな」「できればやりたくない」「やりたくない」のいずれかに挙手させる。 ○95.2%が「やって良かった」と回答したデータを紹介して、積極的な司法参加を促す。
深める	(3) 裁判員制度の現状を知る。 ・裁判員辞退率 約65% 新たな課題: 辞退率を改善するために国がすべきこと、国民が考えるべきことは何だろう。		○裁判員辞退率の高さをもとにした新しい課題を提示し、次時以降の学習につなげる。